

# 平成 27 年 茨城県グローバル人材育成プログラム 報告書

筑波大学附属病院 消化器外科 病院講師

奥田 洋一

## 研修概要

研修病院：Cho Ray 病院（Ho Chi Minh City, Vietnam）

配属部署：消化器外科（消化管グループ・肝胆膵グループ）

期間：2016 年 2 月 20 日～3 月 20 日

## はじめに

このたび茨城県のグローバル事業の一環である海外研修プロジェクトで私が研修させて頂いたのは、ベトナムに 3 つある保健省直轄のトップリファーマル病院の 1 つで南部最大の国立総合病院である Ho Chi Minh City の Cho Ray 病院です。筑波大学附属病院と Cho Ray 病院は協定締結病院であり、様々な診療科で 2 週間程度の短期研修をお互いに度々行ってきました。当科でも昨年の秋に、Cho Ray 病院の消化器外科より 3 名の医師（消化管グループ、肝胆膵グループ、肝臓グループ）を受け入れ技術協力を行いました。その研修の際に Cho Ray 病院の医師の知識量の豊富さ、手術技術の高さを実感しました。今回の海外研修プロジェクトで研修先を選択する際には、筑波大学附属病院での研修を通して既にお互いに気心の知れている医師のいること、高い手術技術を共に手術を行う事で体感してみたいことの 2 点を決め手としました。2016 年 2 月 20 日より 3 月 20 日までの 1 ヶ月という日程で貴重な体験をさせて頂いたのでご報告させて頂きます。

## Ho Chi Minh City, Cho Ray 病院

Tan Son Nhut International Airport へ飛行機が到着したのは予定より 1 時間程遅れた 2 月 21 日の午前 1 時頃でした。当初の予定では、昨年度に筑波大学附属病院で研修を行った医師が迎えに来てくれる事になっていましたが、連絡の行き違いで当日は隣国タイへ出張中のことでした。少しだけ不安な気持ちでタクシーに乗車し、宿泊する Hotel へ向かいました。

Ho Chi Minh City は Vietnam 最大の都市であり、Vietnam 経済の中心地でもあります。そのため、中心地には高層ビルが立ち並びモダンなレストランやカフェ、おしゃれなショップも多く目にするができます。しかし一旦中心地を外れると、そこには、東南アジアらしい活気に満ちた風景をみることができます。

Cho Ray 病院はそんな Ho Chi Minh City の中心地より少し離れた 1 区のはずれ、5 区（5 区は中華街です）に入ったあたりにあります。もともとファーマーズマーケットのあった場所に病院を建てた事もあり病院の名前である Cho Ray とはファーマーズマーケットの事だと教えてもらいました。1974 年に日本の援助により建てられたという歴史のある病院ですが、その外観や内観もさることながら病院の敷地内、院内の人の多さに圧倒されます。多くは患者の世話をしている家族で、なかには廊下に莫藎を敷いて寝ている人や床で食事をしている人などもおり、日本の病院では到底考えられないような光景を目にすることが出来ます。

## 外科研修

Cho Ray 病院での研修は、はじめの 2 週間を消化管グループ、あとの 2 週間を肝胆膵グループで行いました。研修内容は、術前術後の症例の検討（週に一度、症例検討カンファレンスがありましたがベトナム語であったため理解が難しく、その都度担当医師と個別に話をしていました）、手術への参加、術前術後の病棟回診（担当医とベッドサイドにいけますが言葉が通じないため通訳してもらいながらでした）です。

毎朝 6 時に起床しホテルで朝食をとった後、Cho Ray 病院へ向かいます。朝のカンファレンスは 7 時から始まり、前日の緊急症例のプレゼンテーションが研修医により行われます。緊急手術の件数は 10 件前後ととても多く on call の医師が睡眠をとることは難しい様子でした。1 件目の手術は 8 時から始まるためカンファレンス終了後に手術室へ向かい準備を行います。手術件数は非常に多く、消化管グループで 1 日 10 件程度、肝胆膵グループで 1 日 6~7 件程度でした。手術へは毎日午前と午後 1 件ずつ参加し、非常に多くの症例を経験する事ができました。手術の症例は消化管グループでは胃癌、大腸癌、食道癌など、肝胆膵グループでは膵癌、脾腫瘍、先天性胆管拡張症、胆嚢結石症、総胆管結石症などと普段われわれが日本で行っているものと大きくは変わりません。腹腔鏡手術も多く行われており、日本で一般的に行われている大腸や胃、胆嚢結石症の手術はもちろんの事、食道のアカラシアに対する Heller-Dor 手術や直腸癌に対する Hybrid NOTES、先天性胆管拡張症の手術などより先進的なものも行われていました。手術へ参加した際には、手術の適応について、術式の選択について、術中の判断について必ず意見を求められ、担当医と多くの議論を行いました。手術室内の環境や手術器具の部分では日本と大きく異なります。手術器具の種類は少なく、腹腔鏡手術に用いるポートやエネルギーデバイス、リニアステイプラーなどは複数回使用していました。また、日本の様な医療保険制度がないことより患者さんによって手術に支払える金額が異なり、使用できる器具に制限がつくこともありました。そんな状況下においても、他のもので代用品を製作したり、術式を工夫するなどして高いクオリティを保ちながら迅速に手術を行っていたベトナムの医師たちには感心させられ、与えられた環境下で貪欲に知識や技術を習得する事の大切さを感じまし

た。各グループの部長である Trung 医師や My 医師，副部長の Tho 医師の手術の技術は非常に高く，開腹手術，腹腔鏡手術のいずれにおいても日本のトップレベルの医師と同等の技術レベルにあると感じました。常に新たな治療法や手術術式を update し診療に反映しており，短期期間ではありましたが，多くの事を彼らから学ぶ事ができました。おそらく彼らのモチベーションは，ベトナムという国の外科医療のトップを担っているという自負によるものだと感じました。肝胆膵グループの Tho 医師の『世界におけるベトナムの外科医師のイメージを変えたい』という言葉にもそういった強い思いを感じました。

## 最後に

Cho Ray 病院での外科研修は，実際に手術に参加する機会が非常に多く，医療の現場で研修を重ね高度な技術を習得するには非常によい環境だと感じました。また，病院の医師達は常に好意的に接してくれたため多くの事を語り合う機会が持て，ベトナムの同世代の外科医がどのように自分の外科医としての生き方を考え，自分たちの国の医療について考えているのか，また日本という国や日本の外科医に対しどのような印象を持っているのかを知る事ができました。外科医として働きはじめ 10 年がたったこの時期にこのような機会を持つ事ができ本当に有意義であったと感じています。今回の研修を支えて下さったすべての方にここから感謝致します。